019年の4月～6月までの3カ月間、恋問海岸に通い詰めました。ところが、トウキョウトガリネズミを撮ることができないばかりか、一瞬たりとも姿を見ることができなかったのです。白糠町での撮影は諦めて、2020年は嶮暮帰島へ行きました。ここならば過去の実績も十分ですし、確実に撮影できるだろうと思ったのです。ですが、嶮暮帰島でもトウキョウトガリネズミを撮ることができませんでした。それまでだいぶ時間も制作費も使ってしまっていたので、番組側からはプレッシャーをかけられますし、現場の雰囲気もどんよりしていました。私は現場を指揮する立場だったので、もうどうしようかと悩みました。本当に体力的にも精神的にもかなり追い詰められていました」

2年間、トウキョウトガリネズミを撮影するどころか、その姿さえ見ることができなかった六田さん。その後、六田さんはどのような行動をとったのか。

「嶮暮帰島でも撮影できなかったので、仕方なく撮影チームを解散しました。番組側からは、私も東京に帰って来いと言われましたが、ここで帰ったら二度とトウキョウトガリネズミを探しに北海道へ来ることはできないだろうと思いました。どうしても諦めたくなかったので、嶮暮帰島からそのまま白糠町へ向かいました。前年は空振りに終わった恋問海岸でもう一度、一人でトウキョウトガリネズミを探すことにしたのです。そうしたらその日の夜、なんとトウキョウトガリネズミを見つけました。そのときは「お～！いた～!!」って暗闇の中、一人で叫びました(笑)。それで何とか撮影し『ダーウィンが来た！』を放送することができたのです」

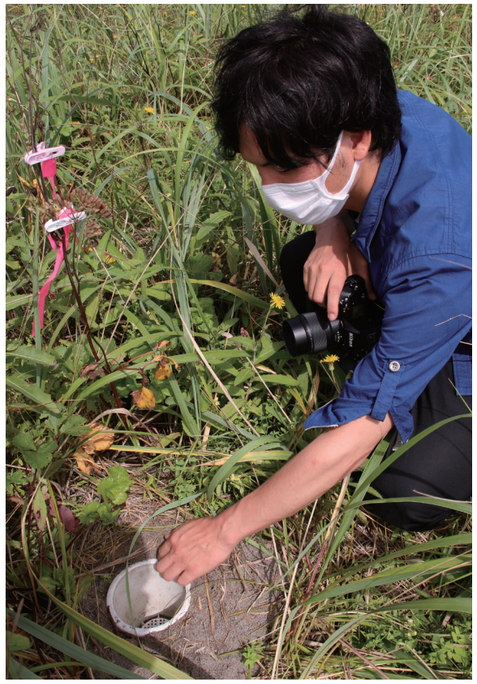
夏の間は、トウキョウトガリネズミに時間を使うため、仕事は一切入れていない六田さん。道内にはトウキョウトガリネズミのほか、オオアシトガリネズミ、ヒメトガリネズミ、エゾトガリネズミという4種類のトガリネズミが生息しており、白糠町にはそのすべてが生息しているといいます。

白糠町へ移住した理由

「『ダーウィンが来た！』の当初の目標は、世界でまだ誰も見たことがないトウキョウトガリネズミの赤ちゃんを撮影することでした。ですが、残念ながらその目標はかないませんでした。番組は完成しましたが、個人的には〝このままでは終われない〟という強い思いが残りました。それで、もう仕事じゃなくてもいいから白糠に引っ越して、トウキョウトガリネズミの赤ちゃんを撮影しようと思ったのです」

その後、トウキョウトガリネズミの赤ちゃんを撮影することはできたのだろうか。

「トウキョウトガリネズミの赤ちゃんを撮影するのは簡単ではありません。まず、現時点での技術では野外で巣を見つけることは難しいので、捕獲して飼育下で産んでもらうしかありません。ところが、ただ捕獲するだけでも難しいのに雌を捕るのは至難の業なのです。理由は分かりませんが、捕獲できるのは約9割が雄です。しかも妊娠している雌を捕獲するとなると、恐ろしく低い確率です。また、雄と雌を交尾させて出産してもらうにしても、トウキョウトガリネズミは寿命が約1年しかないので、毎年雄と雌をそろえなければならず、もう雲をつかむような話です。ところが、実は昨年、撮影することができたのです」



トウキョウトガリネズミを捕獲するため、地中にポットを数カ所仕掛けて、夜間2時間おきに見回りをする。そのため捕獲時期は寝ている暇がなく、体力的にも厳しい。

世界初、トウキョウトガリネズミの赤ちゃんを撮影

2021年8月4日、世界で初めてトウキョウトガリネズミの赤ちゃんを撮影する。

「トウキョウトガリネズミは、体重が2㌘ほどで、見た目では雄か雌か分かりません。しかも妊娠した雌にどのような特徴があるのか、世界中の誰も知らないので、こちらも手探りです。そんなある日、捕獲した1匹のお腹が少し膨らんでおり、体重も3㌘を超えていました。その後も体重は増え、お腹もさらに膨らんできたのです。ついに妊娠している雌に出会ったと確信しました。8月1日、いつものように様子を見に行くと、お腹がしぼみ、前日とはまるっきり別の姿になっていました。〝出産したんだ〟と思いました。手は震え、心臓はバクバクです。ですが、出産直後に巣をのぞくと母親がストレスを感じて、子育てを放棄してしまう可能性があったので、はやる気持ちを抑えて3日間は巣をのぞくことを我慢しました。そして8月4日、河原さんと一緒にそーっと巣の中をのぞいてみると、そこには7匹もの赤ちゃんがいました。それがかわいいのなんのって。これまでの苦労なんか吹き飛んでしまうほどうれしくて、どうしたらいいのか分からないほど興奮しました(笑)」

1 世界で初めてトウキョウトガリネズミの赤ちゃんを撮影。生後4日目の写真。2 トウキョウトガリネズミの赤ちゃん。生後10日目の写真。